

地方独立行政法人青森県産業技術センター

第三期中期目標期間業務実績評価書
(令和元年度～令和5年度)

令和6年9月

青森県

目 次

第一 評価の方法	-----	1
第二 評価の結果		
1 項目別評価		
(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標 (本県産業の未来を支える試験・研究開発の推進と成果の移転・普及)	-----	3
(2) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標 (産業活動への総合的な支援)	-----	12
(3) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標 (試験・研究開発の取組状況等の情報発信)	-----	15
(4) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	-----	16
(5) 財務内容の改善に関する目標	-----	18
(6) その他業務運営に関する重要目標	-----	19
2 全体評価		
(1) 総評	-----	21
(2) 業務運営の改善その他の措置命令事項	-----	21

第一 評価の方法

地方独立行政法人法第28条第1項及び第3項の規定に基づく、地方独立行政法人青森県産業技術センター（以下「センター」という。）の第三期中期目標期間（令和元年度～令和5年度）の業務の実績評価については、「地方独立行政法人青森県産業技術センターの業務の実績に関する評価の基本方針」及び「地方独立行政法人青森県産業技術センター中期目標期間終了時見込評価及び中期目標期間評価実施要領」に基づき行った。

評価の実施は、センターが中期計画に定めた事項ごとにその実績及び自己評価等を内容とする業務実績報告書等を基に、センターから聴取等を行うことにより、業務の実績について調査・分析を行い、その結果を踏まえて「項目別評価」及び「全体評価」を行った。

なお、中期計画で数値目標を設定している項目については、令和5年度までの5か年分の実績件数と目標達成率を記載した。また、数値目標を設定していない項目については、令和5年度までの5か年分の実績件数を記載した。

1 項目別評価

中期目標に定めた次の事項ごとに、中期目標の達成状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、次の5段階の評価基準により評価するとともに、その評価理由を明らかにした。

- (1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標
(本県産業の未来を支える試験・研究開発の推進と成果の移転・普及)
- (2) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標（産業活動への総合的な支援）
- (3) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標（試験・研究開発の取組状況等の情報発信）
- (4) 業務運営の改善及び効率化に関する目標
- (5) 財務内容の改善に関する目標
- (6) その他業務運営に関する重要目標

〔評価基準〕

- 5：中期目標の達成において特筆すべき状況にある。
- 4：中期目標を達成している。
- 3：中期目標をおおむね達成している。
- 2：中期目標の達成においてやや不十分な状況にある。
- 1：中期目標の達成において著しく不十分であり、重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、第三期中期目標期間における業務実績の全体について、記述式により総合的な評価を行った。

第二 評価の結果

1 項目別評価

(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標 (本県産業の未来を支える試験・研究開発の推進と成果の移転・普及)	評価	4：中期目標を達成している。
--	----	----------------

ア 部門別評価

(ア) 工業部門 (評価4)

<評価の理由>

センターの自己評価は、中期目標に定めた最小項目13項目のうち、1項目が「5：中期目標を大幅に上回って達成している」、5項目が「4：中期目標を上回って達成している」、7項目が「3：中期目標を達成している」であり、業務の進捗状況及び中期目標期間業務実績報告書の特記事項の内容を総合的に判断し、試験・研究開発の推進と成果の移転・普及が十分に行われていると認められることから、「4：中期目標を達成している」と評価される。

<特筆すべき取組>

a 試験・研究開発の重点化

[戦略推進事項]

(a) 労働力の不足等に対応するためのICT等を活用した農林水産物の生産技術等に関する試験・研究開発

農林部門との連携により、「青天の霹靂」の生産性と品質向上を図るICTシステム「青天ナビ」の開発・改良を行い、生産指導の効率化と生産性・品質向上に大きく貢献し、一般財団法人日本穀物検定協会が発表するお米の食味ランキングにおいて8年連続で「特A評価」を獲得した。

また、「はれわたり」及び「まっしぐら」の収穫適期を表示するWebアプリ『あおもり米収穫支援システム「はれナビ」、「まっしナビ」』を開発し、県産米の競争力強化に貢献しており、特筆すべき取組と認められる。

<中期目標を達成していると判断した取組>

a 試験・研究開発の重点化

〔戦略推進事項〕

(a) 健康的な生活に寄与する県産素材を活用した付加価値の高い製品に関する試験・研究開発

自然由来乳酸菌を利用した青森生酏の開発、麹菌の普及、冷凍濃縮及び高機能果実酒の開発などを行うとともに、共同研究及び技術指導により、多数の県産酒類の商品化を支援した。

また、青森県初のブランデー専門製造場開業への支援が、りんご産業の活性化に寄与したとして、『全国食品関係試験研究場所長会「優良研究・指導業績表彰」』を受賞しており、今後も地域性と機能性の強化による県産酒類の高付加価値化が期待されることから、中期目標を達成していると認められる。

〔重点推進事項〕

(a) 人口減少の進行等の本県の地域課題に対応したものづくり産業に関する試験・研究開発

協働ロボット操作体験会や産業用ロボットの安全教育をはじめ、地域のロボット導入促進に向けた取組を進めるとともに、作業工程を省力化するためのロボット自動化システムを開発し、製造現場への設置を支援しており、県内産業へのロボット導入促進に寄与していることから、中期目標を達成していると認められる。

(b) 県民の生き生きとした健康未来を支える製品・技術及び地域工芸を支える技術に関する試験・研究開発

県民の健康を支える製品開発や医療従事者の技術向上に資するため、県内企業との共同研究により、エコー画像で針と血管の位置をリアルタイムで観察しながら、針を刺す訓練ができる皮膚モデルや、肺血管の切離操作を身に付けることができる肺動脈モデルを開発し、商品化を支援した。

また、医療福祉デザイン研究会を発足し、医療福祉における課題解決に向けた商品の設計・試作を行い、現場の評価を反映させた「木製福祉椅子」の商品化を支援した。

今後も開発した技術による商品化が期待されることから、中期目標を達成していると認められる。

(c) 「スマート社会」の実現に向けた省エネルギー技術等に関する試験・研究開発

未利用熱の活用による快適な雪国生活の実現に向け、県内企業との共同研究により、住宅の換気で発生する排熱を利用した融雪

システムを試作・改良するとともに、屋外試験による効果検証を経て特許を出願した結果、実際の建物による実証実験に進展し、今後、商品化が見込まれることから、中期目標を達成していると認められる。

b 試験・研究開発の成果の移転・普及

(a) 商品化・実用化の推進

生産事業者と共同で研究開発を行い、成果の商品化・実用化の件数が5か年で113件（目標達成率151パーセント）と目標値を上回ったことから、中期目標を達成していると認められる。

(イ) 農林部門（評価4）

<評価の理由>

センターの自己評価は、中期目標に定めた最小項目14項目のうち、3項目が「5：中期目標を大幅に上回って達成している」、3項目が「4：中期目標を上回って達成している」、8項目が「3：中期目標を達成している」であり、業務の進捗状況及び中期目標期間業務実績報告書の特記事項の内容を総合的に判断し、試験・研究開発の推進と成果の移転・普及が十分に行われていると認められることから、「4：中期目標を達成している」と評価される。

<特筆すべき取組>

a 試験・研究開発の重点化

[戦略推進事項]

(a) 労働力の不足等に対応するためのICT等を活用した農林水産物の生産技術等に関する試験・研究開発

「青天の霹靂」の生産を支援するため、工業部門と連携して衛星データによる水田1枚ごとの生産指導が可能なICTシステム「青天ナビ」の開発・改良を行い、生産指導の効率化が進み、産地全体の収量が平均1.2俵/10a向上するなど、生産性・品質向上に大きく貢献し、一般財団法人日本穀物検定協会が実施する食味ランキングにおいて8年連続の特A評価につなげたことから、特筆すべき取組と認められる。

〔重点推進事項〕

(a) 国内外で競争力の高い優良な品種及び種畜に関する試験・研究開発

水稲品種「はれわたり」、「あおもりっこ」、「ゆたかまる」、「あおばまる」、にんにく品種「青森福雪」、ながいも品種「^{ゆめゆき}夢雪」、あらげきくらげ品種「青AK1号」を品種登録出願したことにより、県産米等のブランド化に貢献することが期待できるほか、基幹種雄牛「^{ただみつやす}忠光安」、「^{さきほな}幸紀花」、「^{としゆうふく}寿優福」、「^{かめはなくに}亀花邦」が優れた産肉能力を持つことを明らかにし、基幹種雄牛の指定につなげたことにより、肥育牛の肉質向上が期待できる。また、無花粉スギ3品種が優良品種に認定され、苗木生産事業を開始したことで、優良材木の生産振興に貢献することが期待されることから、特筆すべき取組と認められる。

(b) 環境負荷の軽減等に対応した安全・安心な農林畜産物の生産管理技術に関する試験・研究開発

耐性菌の発生が問題となっていたリンゴ黒星病について、重点防除時期を明らかにするとともに、新たな防除体系を確立して普及に移したほか、新規薬剤の農薬登録について県と連携して早期に実用化し、黒星病防除体制を万全にしたことで、黒星病の発生面積は耐性菌発生前の状態に減少し、りんごの安定生産に貢献したことから、特筆すべき取組と認められる。

<中期目標を達成していると判断した取組>

a 試験・研究開発の重点化

〔戦略推進事項〕

(a) 健康的な生活に寄与する県産素材を活用した付加価値の高い製品に関する試験・研究開発

機能性を見いだしたカタクリ葉身を量産するため、カタクリの増殖細胞塊から培養によって成熟球根を養成する方法を確立して特許出願を行い、共同研究している企業がこの手法の実用化を進めており、美容・健康商品の開発に貢献することが期待されることから、中期目標を達成していると認められる。

(b) 温暖化等の気候変動に対応できる農林水産物の生産技術等に関する試験・研究開発

ながいもの奇形の原因となり多雨により発生する「穴落ち」の対策技術や、温暖化により病害虫被害が拡大するのを防ぐため、メロン、にんにく、ながいも及びりんごについて高温性病害虫の発生生態解明、診断方法及び防除技術を明らかにした上で、これらを参考となる研究成果やりんご病害虫防除歴などに反映し、普及に移したことから、中期目標を達成していると認められる。

〔重点推進事項〕

(a) 産地活力を向上させる高品質で収益性の高い農林畜産物等の生産技術等に関する試験・研究開発

水稻の高密度播種苗栽培マニュアル、「はれわたり」良食味・高品質栽培マニュアルを作成したほか、難防除雑草ツユクサ防除対策技術体系、アルストロメリアのLED電照栽培による増収効果、無袋で長期貯蔵が可能なりんご品種「秋陽」の栽培特性、西洋なし「リーガル・レッド・コムス」の長期貯蔵技術、ながいも栽培における先端技術の導入等の技術を確立し、生産現場に普及させたことから、中期目標を達成していると認められる。

(ウ) 水産部門（評価4）

<評価の理由>

センターの自己評価は、中期目標に定めた最小項目13項目のうち、1項目が「5：中期目標を大幅に上回って達成している」、4項目が「4：中期目標を上回って達成している」、8項目が「3：中期目標を達成している」であり、業務の進捗状況及び中期目標期間業務実績報告書の特記事項の内容を総合的に判断し、試験・研究開発の推進と成果の移転・普及が十分に行われていると認められることから、「4：中期目標を達成している」と評価される。

<特筆すべき取組>

a 試験・研究開発の重点化

〔重点推進事項〕

(a) 地域の特色ある漁業の発展に向けた新しい技術に関する試験・研究開発

マツカワの種苗量産化技術開発を進め、目標1万尾生産に対して7.7万尾の種苗生産を実現し、陸上養殖技術を確立したほか、大型マス類等の地域特産品化技術に関しては、海面養殖サーモン種苗の効率的な生産方法として、稚魚に標準の150パーセントの量の給餌を行うことで、淡水育成期間を大幅に短縮する技術を開発し民間養魚場に技術指導したことをはじめ、「青い森^{くれない}紅サーモン」生産体制強化のため、生産マニュアルや出荷手順を作成し普及したほか、生産者と流通関係者間の調整を進め新たに量販店での販売を成功させるなど、水産資源の有効活用と地域特産品化等に貢献したことから、特筆すべき取組と認められる。

<中期目標を達成していると判断した取組>

a 試験・研究開発の重点化

〔戦略推進事項〕

(a) 労働力の不足等に対応するためのICT等を活用した農林水産物の生産技術等に関する試験・研究開発

工業部門と連携して開発したつり下げ装置を装着した着水型ドローンを使用して、小川原湖水の進入状況の観測や日本海の藻場調査等を実施したほか、ホタテガイのへい死に与える影響についてデータベースを構築し、へい死率を予測するフローチャートを作成するなど、効率的な調査や生産量予測技術等の開発を進めたことから、中期目標を達成していると認められる。

(b) 温暖化等の気候変動に対応できる農林水産物の生産技術等に関する試験・研究開発

品質の良い養殖コンブを安定的に生産するために、コンブ母藻^{ぼそう}の成熟を人為的にコントロールして確実かつ早期に種苗生産する技術を開発し、種苗生産現場へ移したことから、中期目標を達成していると認められる。

〔重点推進事項〕

(a) 浜の活性化を支える水産資源の維持・増大等に関する試験・研究開発

ホタテガイの漁業者施設における稚貝採取や稚貝分散の遅れによりへい死率が高まることや、稚貝の収容密度により貝の成長が遅くなること等を明らかにし、ホタテガイの安定生産指導に活用しているほか、シジミ稚貝の生残が良い放流に適した漁場を初めて把握するといった成果を踏まえて、シジミ種苗生産マニュアルを作成、普及に移し、小川原湖のシジミ資源・漁獲量の安定化に貢献していることから、中期目標を達成していると認められる。

(b) 漁業経営の安定・発展に向けた水産資源の持続的利用に関する試験・研究開発

アイナメの資源管理に有用な新たな知見を数多く得たことに加え、陸奥湾のマダラについて、稚魚分布調査、漁獲物の年齢査定等のデータを統計解析し、資源量を予測する実用的な手法を開発したほか、好漁場だけでなく広範囲の不漁海域も予測できるスルメイカの海況予測や、小川原湖で水産物へのカビ臭着臭で問題となっている糸状藍藻類の予察モデルが水産資源の管理や操業判断に利用されていることから、中期目標を達成していると認められる。

(エ) 食品加工部門（評価4）

<評価の理由>

センターの自己評価は、中期目標に定めた最小項目13項目のうち、2項目が「5：中期目標を大幅に上回って達成している」、4項目が「4：中期目標を上回って達成している」、7項目が「3：中期目標を達成している」であり、業務の進捗状況及び中期目標期間業務実績報告書の特記事項の内容を総合的に判断し、試験・研究開発の推進と成果の移転・普及が十分に行われていると認められることから、「4：中期目標を達成している」と評価される。

<特筆すべき取組>

a 試験・研究開発の重点化

[重点推進事項]

(a) 意欲ある食品関連産業の技術的課題の解決や新商品開発支援に関する試験・研究開発

事業者の潜在的開発ニーズに対応するため、加工原料代替候補魚種の提案や簡便性に重点をおいた製品開発支援を行い、支援商品の1つが全国レベルの表彰において最高賞となる農林水産大臣賞を受賞したほか、イナダ等のレトルト製品など121品目の製法をマニュアル化した資料を毎年県内約300の事業者配布することにより、技術普及及び商品開発の支援を行ったことから、特筆すべき取組と認められる。

b 試験・研究開発の成果の移転・普及

(a) 商品化・実用化の推進

生産事業者と共同で研究開発を行い、成果の商品化・実用化の件数が5か年で159件（目標達成率212パーセント）と目標値を大幅に上回っていることから、特筆すべき取組と認められる。

＜中期目標を達成していると判断した取組＞

a 試験・研究開発の重点化

〔戦略推進事項〕

(a) 労働力の不足等に対応するためのICT等を活用した農林水産物の生産技術等に関する試験・研究開発

工業部門と連携して、魚種やサイズ、脂肪分等で自動分別する画像・近赤外分光による自動漁獲物選別技術を開発し、実証試験の検証結果を基に作成した「選別・省力化・軽労化マニュアル」により16魚種の判別、サバの脂質含量による選別等が可能となり、八戸前沖さばの認定時期決定に活用されているほか、漁獲物・品質情報等のデータをスマートフォン等で確認できるシステムを開発するなど、水産業の現場作業の効率化に貢献していることから、中期目標を達成していると認められる。

(b) 健康的な生活に寄与する県産素材を活用した付加価値の高い製品に関する試験・研究開発

黒ニンニクに含まれるGABAや赤キクイモに含まれるイヌリンを対象成分とした機能性表示食品届出の支援に加え、ヤーコンの加温処理製法やシイタケの新規加工技術を事業者と共同で特許を出願したほか、新たな価値の創造のため、規格外の夏秋いちごやミズダコの内臓などの未・低利用資源を利用した栄養摂取をサポートする加工食品や機能性成分を含む加工食品等のマニュアル化により、県内企業の製品開発に貢献したことから、中期目標を達成していると認められる。

〔重点推進事項〕

(a) 原料に関わる状況の変化に対応できる食品加工技術に関する試験・研究開発

ハンディ型近赤外分光装置を利用してブリ等の脂質が測定できるように脂質測定モデルを作成し、現場で利用されているほか、農産物の加工技術では、赤キクイモの機能性成分分析などによるドリンク等の商品化の支援や、高アミロース米「あおもりっこ」を配合したパンの特性を明らかにし普及に移すなど、県産農産物の高付加価値化につながる技術開発が進んでいることから、中期目標を達成していると認められる。

(b) 社会情勢やライフスタイルの変化に対応した食品に関する試験・研究開発

ヒラメなど高級魚種の鮮度保持技術について有効な活締め処理方法や適切な熟成期間を確認し、品質保持マニュアルを作成して普及に移したことから、中期目標を達成していると認められる。

イ 総合評価（評価4）

<評価の理由>

4 研究部門の評価の平均値により、「4」相当と認められることから、「4：中期目標を達成している」と評価される。

(2) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標
(産業活動への総合的な支援)

評価 4：中期目標を達成している。

＜評価の理由＞

センターの自己評価は、中期目標に定めた最小項目11項目のうち、2項目が「5：中期目標を大幅に上回って達成している」、1項目が「4：中期目標を上回って達成している」、8項目が「3：中期目標を達成している」であり、業務の進捗状況及び中期目標期間業務実績報告書の特記事項の内容を総合的に判断し、産業活動への支援が十分に行われていると認められることから、「4：中期目標を達成している」と評価される。

ア 技術相談・指導

(ア) 技術相談への対応

生産事業者及び関係団体等からの電話や対面による技術相談件数は5か年で18,249件と計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(イ) 生産現場における指導

農林水産分野において、地域県民局と連携して「青天の霹靂」・「はれわたり」の生産指導やマツカワの養殖指導等を5か年で637回実施するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

イ 依頼試験・分析・調査及び設備・機器の利用

(ア) 依頼試験・分析・調査

依頼試験・分析・調査について、積極的なPRを行い、実施件数が5か年で20,456件（目標達成率149パーセント）と目標値を上回ったことから、中期目標を達成していると認められる。

(イ) 設備・機器の利用

設備・機器の利用について、積極的なPRを行い、利用件数が5か年で21,164件（目標達成率282パーセント）と目標値を上回ったことから、中期目標を達成していると認められる。

ウ 関係団体、産業界等との連携・協力

(ア) 研究成果発表会、研修会等の開催

試験・研究開発により蓄積した技術等の成果を広く活用してもらうため、協働ロボット等操作体験会、弘前工業研究所100周年記念展示及び一般公開、各研究所の研究成果発表会等を5か年で170回開催するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(イ) 関係団体等との情報交換

技術とノウハウの活用や情報交換のため、関係団体が主催する「おうとうジュノハート普及促進研究会」、「青い森^{くれない}紅サーモン生産・販売対策協議会」、「冷凍食品セミナー」などの各種会議等に5か年で5,989回参加するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(ウ) 地域産業の担い手の育成や子供たちの産業に対する理解の増進

担い手の育成や子供たちの理解の増進のため5か年で、関係団体が主催する「酒造技術者研修」や「青森県発明くふう展審査会」などの各種研修会等に1,730回、延べ2,507人、小学校、中学校、高等学校及び大学に127回、延べ167人の講師等を派遣し、産業技術に対する理解を深めてもらうなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

エ 知的財産等の創造・管理・活用

(ア) 創造と有効活用

新たに使用を許諾した「高保水性プロテオグリカン」などの産業財産権及び「はれわたり」などの優良種苗供給の件数が5か年で20件（目標達成率200パーセント）と目標値を大幅に上回っていることから、特筆すべき状況にあると認められる。

(イ) 適正管理

権利を適切に管理するため、外部の有識者で構成する「職務発明等審査会」を毎年2回開催し、特許権の更新等を適正に行うなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(ウ) 優良な種苗・種畜等の生産と供給

生産者が安全・安心で高品質な農林水産物を安定的に生産するため、水稻の種苗、鶏のひな、優良種雄牛の凍結精液等を供給するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

オ 緊急事態への迅速な対応

県と締結した「緊急時における業務連携に関する協定」に基づき、緊急事態に対応できる体制を整備し、令和3年から令和4年度末の間に県内の養鶏場で発生した高病原性鳥インフルエンザへの対応として、延べ528人が県の指示に従い防疫措置に係る作業に当たったほか、松くい虫被害が疑われるマツ類のDNA検査を行ってその結果を速やかに県に報告するとともに防除方法の助言を行うなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(3) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標
(試験・研究開発の取組状況等の情報発信)

評価 4：中期目標を達成している。

＜評価の理由＞

センターの自己評価は、中期目標に定めた最小項目2項目のうち、1項目が「5：中期目標を大幅に上回って達成している」、1項目が「3：中期目標を達成している」であり、業務の進捗状況及び中期目標期間業務実績報告書の特記事項の内容を総合的に判断し、試験・研究開発の取組状況等の情報発信が十分に行われていると認められることから、「4：中期目標を達成している」と評価される。

ア 多様な広報媒体を利用した情報発信

ホームページによる研究成果等の情報発信を、新たな動画を5か年で130件追加するなどして1,690回行ったほか、新聞、テレビ、ラジオ等の多様な広報媒体を用いて試験・研究開発の取組状況等をPRするなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

イ 迅速な情報提供

水稲、花き及び野菜の生育状況、りんごの開花予測、陸奥湾の海況などの利用者にとって有益な幅広い分野の情報をホームページで迅速に提供したことで、アクセス数が5か年で2,238,769回（目標達成率224パーセント）と目標値を大幅に上回っていることから、特筆すべき状況にあると認められる。

(4) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価

3：中期目標をおおむね達成している。

<評価の理由>

センターの自己評価は、中期目標に定めた最小項目7項目全てが「3：中期目標を達成している」であり、業務の進捗状況及び中期目標期間業務実績報告書の特記事項の内容を総合的に判断し、業務運営の改善及び効率化の取組が計画どおりに実施されていると認められることから、「3：中期目標をおおむね達成している」と評価される。

ア 業務の見直し等

(ア) 内部評価、外部評価等に基づいた資源配分

運営費交付金で実施する研究課題について、内部評価及び外部評価により予算額を査定するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(イ) 業務実績評価やアンケート調査等に基づいた業務の見直し

県の業務実績評価において「業務運営の改善その他の措置命令事項」はなかったほか、センターの利用者を対象としたアンケート調査に基づき業務を見直すなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(ウ) 情報システム等の有効活用

職員が共有化すべき情報については、情報システムやファイルサーバーなどに格納し、職員が閲覧できる状態にしているほか、会議のオンライン化を積極的に進め、業務の効率化を図るなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

イ 組織運営

(ア) 企画経営機能の発揮

理事会や所長会議を開催し、予算や業務運営に関する計画等の審議や、各研究所の取組方針や研究推進事項について協議するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(イ) 各試験研究部門による一体性の確保

スマート農業への早期適応や冷凍食品の研究開発の推進など、特に重要かつ緊急的な取組が求められる業務については、研究所の枠を越えたプロジェクトチームを設置して検討を行ったほか、センターの経営効率化や円滑な事業推進に職員の意見を反映させるため、各種委員会を設置して検討を行うなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

ウ 職員の確保と能力の向上

(ア) 職員の資質向上

センターが策定した人員適正化計画に基づく専門性の高いプロパー職員の採用や、センターの人財育成方針に基づき各種研修への職員派遣や資格取得の支援を行うなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(イ) 適正な人事評価

人事評価制度を円滑に運用するため、県が実施する評価者研修を活用するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(5) 財務内容の改善に関する目標

評価

3 : 中期目標をおおむね達成している。

<評価の理由>

センターの自己評価は、中期目標に定めた最小項目5項目全てが「3 : 中期目標を達成している」であり、業務の進捗状況及び中期目標期間業務実績報告書の特記事項の内容を総合的に判断し、財務内容の改善に向けた取組が計画どおりに実施されていると認められることから、「3 : 中期目標をおおむね達成している」と評価される。

ア 運営経費の執行の効率化

(ア) 省資源化の推進

研究所間の会議をオンラインで行って使用料等の削減を図ったほか、消耗品等の一括発注や業務や健康に支障のない範囲で徹底して光熱費の削減に取り組むなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(イ) 職員のコスト意識の向上、運営経費の適正かつ効率的執行

予算の執行状況を情報システムの掲示板で職員に周知してコスト意識の向上を図ったほか、財務事務に関する研修等を通じて予算の適正執行等につなげるなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

イ 外部からの研究資金の導入と自己収入の確保

(ア) 公募型研究資金の獲得

5か年で、企業等からの受託研究費を233課題672, 390千円、国や科学技術振興機構等の公募型研究資金を99課題143, 596千円獲得するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(イ) 依頼試験手数料、農林水産物販売収益等の自己収入の確保

保有する機器の利用料金や依頼試験の内容等を生産事業者への訪問時や研修会等で説明やリストの配布により周知して利用に結びつけるとともに、生乳、米などの農林水産物を販売して自己収入を確保するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

ウ 剰余金の有効な活用

研究に必要な設備の更新等に剰余金を活用しており、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(6) その他業務運営に関する重要目標

評価

3 : 中期目標をおおむね達成している。

<評価の理由>

センターの自己評価は、中期目標に定めた最小項目5項目全てが「3 : 中期目標を達成している」であり、業務の進捗状況及び中期目標期間業務実績報告書の特記事項の内容を総合的に判断し、その他業務運営に関する重要目標達成の措置が計画どおりに実施されていると認められることから、「3 : 中期目標をおおむね達成している」と評価される。

ア 内部統制の強化及び法令遵守の徹底

「内部統制の推進に関する規程」に基づいた内部監査により業務の自己点検を行うとともに、法令遵守の徹底に向け「青森産技を支える人財の育成方針」に基づく基本研修を実施するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

イ 情報管理・公開

「情報セキュリティ規程」に基づき最高情報セキュリティ責任者、総括情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ委員などを定めてネットワーク接続端末を管理するとともに、ホームページ管理講習会等を開催し、情報漏えい防止を図るなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

ウ 労働安全衛生管理

(ア) 安全衛生管理チェックリストによる各種点検及び労働安全衛生に関する研修等の実施

「職員安全衛生管理規程」に基づき、安全衛生管理チェックリストを用いた機器の自主検査や安全衛生パトロールを実施するとともに、事故事例の周知徹底を行うことにより労働災害の防止を図るなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

(イ) 職員の心身の健康の保持増進

全職員を対象に定期健康診断を実施し、「要指導」の判定を受けた職員に対して産業医による事后面談を実施したほか、メンタルヘルス担当医によるメンタルヘルス研修を開催するなど、計画どおりに実施されたことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

エ 施設・設備の計画的な整備

高品質ニンニク安定供給施設、試験船「なつどまり」及び畜産研究所の総合庁舎が竣工したことから、おおむね中期目標を達成していると認められる。

2 全体評価

(1) 総評

センターは、これまでの成果を継承しながら、技術の実用化や売れる商品づくり等の出口を見据えた取組を戦略的かつ重点的に推進し、本県の産業の振興及び経済の発展を下支えするため、役職員が一丸となって試験・研究開発の業務に取り組んでいる。

「本県産業の未来を支える試験・研究開発の推進と成果の移転・普及」については、工業部門では、農林部門との連携により、「青天の霹靂」の生産性と品質向上を図るICTシステム「青天ナビ」を開発したこと、農林部門では、ブランド化が期待される水稻品種「はれわたり」等の品種登録出願や、種雄牛「^{としゆうふく}寿優福」等が優れた産肉能力を持つことを明らかにし、基幹種雄牛の指定につなげたこと、水産部門では、マツカワの種苗量産化技術開発を進め、陸上養殖技術を確立したこと、食品加工部門では、加工原料代替候補魚種の提案や簡便性に重点をおいた製品開発支援を行ったこと等から、「中期目標を達成している」とした。

「産業活動への総合的な支援」については、依頼試験・分析・調査の実施件数及び設備・機器の利用件数が目標値を上回っているほか、新たに使用を許諾した産業財産権と優良種苗供給の件数が目標値を大幅に上回っていることから、「中期目標を達成している」とした。

「試験・研究開発の取組状況等の情報発信」については、水稻、花き及び野菜の生育状況、りんごの開花予測、陸奥湾の海況などの利用者にとって有益な幅広い情報をホームページで迅速に提供することでアクセス数が目標値を上回っていることから、「中期目標を達成している」とした。

「業務運営の改善及び効率化に関する目標」など3項目については、計画どおり実施されたことから、「中期目標をおおむね達成している。」とした。

第三期中期目標・計画期間（令和元年度～令和5年度）の全体評価は、「中期目標を達成している」が3項目、「中期目標をおおむね達成している」が3項目であり、そのうち主たる業務である「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に該当する3項目がいずれも「中期目標を達成している」ことを総合的に勘案し、中期目標を達成していると評価する。

(2) 業務運営の改善その他の措置命令事項

特になし。